

令和6年度 東久留米市立 西中学校		学校評価報告書	
学校教育目標	賢く 優しく 逞しく 〇一年 自主 〇二年 自律 〇三年 自治	教育ビジョン	【目指す学校像】(1)自治力のある集団、正義の通る集団としての学校 (2)すべての生徒が心の居場所をもつ学校 (3)学習の基礎・基本を確実に身に付け、主体的に学ぶ力を培う学校 (4)学校・家庭・地域社会が共に協力し、生徒を育てる学校
		【目指す児童・生徒像】	(1)知性のある「賢い生徒」 (2)思いやりのある「優しい生徒」 (3)心身共に健康な「逞しい生徒」
		【目指す教師像】	(1)よき社会人の育成に尽力する教師 (2)本校の課題を理解しその解決のために組織の一員として努力する教師 (3)生徒理解力や授業力等の教師としての資質・能力の向上を常に目指す教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	【成果】・教員の授業力、学力向上につながる評価の理解 ・道徳の授業前検討会による授業力の向上並びに人権教育の推進 ・いじめの未然防止への対応 ・特別支援教育の推進 【課題】・到達目標設定、形成的評価の充実と主体的で深い学びの推進 ・機能的、組織的な体制の確立とカリキュラム・マネジメントの推進 ・特別支援教育の更なる充実 ・不登校生徒の減少		

東久留米市第3次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	(令和8年度までの3年間)	(1年間)	取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	規範意識や他人を思いやる心を育む教育の推進	人権尊重教育の推進	自他を大切にする態度を養い、いじめのない学校生活のために、すべての教育活動を通して、生命尊重・人間尊重の精神の涵養に努め、生徒の人格の完成を目指す。	基本的な生活習慣、規範意識、美化意識、自主的・自律的な態度をもった生徒を育成。	特別の教科 道徳の全体計画、年間指導計画に基づき、全教師が同一歩調で計画的に実施する。	人権尊重を意識している生徒の割合が、 4：90%以上 3：70%以上 2：50%以上 1：50%未満	4	3	3.7	自他を大切にする精神を育み、自己肯定感・自己有用感を高める取組、「いじめ」のない学校にしようという取組がなされていると感じる。教職員と生徒・保護者の認識に、すれ違いも感じる。	「特別の教科 道徳」を中心に、教育活動全体を通して、人権意識を高める取組を進めていく。 12月の全校朝礼では、人権週間を取り上げ、人権意識を高める機会とする。
2	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	道徳教育の充実	他者及び集団との正しい関係の理解を通して自己を正しく理解させ、道徳的な判断力と実践力の向上を目指す。	自立心や自律性を高め、人間としての生き方についての自覚を深め、道徳の実践力を育成する。	学級活動、生徒会活動に積極的に参加、協力する活動を工夫し、自主性・自律性を育成する。	自主性・自律性が育まれたと感じている生徒の割合が、 4：90%以上 3：70%以上 2：50%以上 1：50%未満	4	4	3.9	行事等の集団活動に、自主的に真摯に取り組む生徒が多いと感じる。真面目に取り組むことをからかう等の雰囲気が無い今の状態が維持されることを期待している。	道徳の授業を実施する前に、授業構成や発問について検討する学年会を充実させ、教員の道徳の授業力を高めていく。
3	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	人権尊重教育の推進	一人一人の良さを正しく評価することによって、生徒の自己肯定観・自己有用感の向上を目指す。	アンケートや面談、日頃の指導を通して、生徒間の望ましい人間関係を育て、不登校・いじめのない学校を築く。	特別支援コーディネータ、担任、保護者、養護教諭、S・C、SSW及び関係諸機関等との連携による組織的な対応を行う。	不登校生徒について、SC、SSWなどの関係機関と関わっている生徒の割合が、 4：90%以上 3：70%以上 2：50%以上 1：50%未満	3	3	3.1	関係機関と関わっていない不登校生徒について、学校だけで解決するのは困難と感じる。一朝一夕で解決する問題ではないため、引き続き、丁寧な対応と適切なアプローチを期待する。	担任が一人で抱えることなく、学年や養護教諭、スクールカウンセラーとも連携する。特別支援コーディネーターを中心とした教育相談部会を活用して、組織的に対応する。関係諸機関との連携も密にし、学校以外の相談場所や居場所の確保に努める。
4	II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	確かな学力の育成	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	指導法及び評価方法の研究を通して授業の改善を図るとともに、到達目標を明確にした授業の実践を目指す。	毎時間の到達目標を明確にし、生徒自身が到達目標に照らして、どこまで到達しているかを明確にさせ、自らがその課題を克服するようにする。	毎時間の授業の到達目標を生徒と教師が共有しその達成度を生徒自らが授業の終わりに判断できるよう工夫する。	到達目標の活用に関する、生徒の肯定的意見が、 3：85%以上 2：80%以上 1：80%未満	4	3	3.7	毎時間の授業の到達目標を生徒と教師が共有し、達成度を生徒が判断し、学習の振り返りができているようである。学校生活での生徒の自主的な行動を、学習面につなげてもらいたい。	各授業の到達目標の明示に加えて、授業の見通しをもたせるための授業の流れも明確にする。到達目標に対する振り返りの時間を設定し、生徒自身に到達度を把握させる時間を確保する。
5	II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	確かな学力の育成	教員の資質・能力の向上	生徒による授業評価等を確実に行之い、授業力の向上を目指す。	体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を取り入れ、生徒が興味・関心に基づき自ら考える授業を実施する。	生徒による授業評価の結果も活用し、授業改善プランにそれを反映し、教師の授業力向上を図る。	教員の学習指導に対する、生徒と保護者の肯定的意見が、 4：90%以上 3：70%以上 2：50%以上 1：50%未満	4	3	3.3	教職員と生徒の認識の違いが気になる。生徒による授業評価に対し、検証することで改善される。保護者が授業を見る機会が少ない中で、どのように保護者に伝えるかも課題である。	生徒による授業評価と学校評価アンケートの結果を活用し、授業改善に取り組み、授業力の向上を全校で課題とする。
6	II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	確かな学力の育成	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	適切な評価活動を通して、一人一人の生徒が主体的・対話的で深い学びのできる学習を推進する。	小テスト・ノートチェック・レポート等を活用して、学習のための形成的評価を充実させ、基礎的な学力の定着を図る。	教員の90%以上が、生徒の実態に応じた指導形態を工夫した授業を実施する。	基礎的な学力が定着していると感じている生徒の割合が、 4：90%以上 3：70%以上 2：50%以上 1：50%未満	4	3	3.7	個に応じた授業がなされていると思うが、基礎・基本の範囲が生徒に明確に伝わっていないのではないかと。基礎学力の定着に課題がある生徒への補修や外部人材の活用など検討していただきたい。	小テスト、レポート等を活用して、形成的評価を充実させ、基礎的な学力の定着を図る。
7	II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	質の高い教育の基盤となる環境の整備	ICT環境の整備	ICT機器を活用し、生徒の個に応じた学びと対話的な学びを充実させる。	GIGAタブレットを活用した授業展開を増やし、生徒の学習意欲を高めるとともに、分かりやすい授業を実施する。	教員の90%以上が、ICT機器を活用した授業を、週に1回以上実施する。	授業でICT機器が効果的に使われていると感じる生徒の割合が、 4：90%以上 3：70%以上 2：50%以上 1：50%未満	4	3	3.3	タブレット等のICT機器を活用した学習は、これからの時代に必要だと思われる。生徒は学習にICTを取り入れることに何を求めているのか聞いてみたい。	生徒は、学校評価アンケートで、もっとタブレットを活用した授業を求めている。ほぼ毎日、GIGAタブレットを授業で使用しているが、資料の拡大表示以外の効果的な活用にも取り組んでいく。
8	III 時代の要請にこたえる信頼される学校づくり	持続可能な指導体制の整備	連携・協働による教育活動の推進	学級活動、生徒会活動、学校行事などへの積極的な参加及び奉仕活動などの自主的、実践的な活動を通して、役割と責任、社会貢献の精神を育み、社会性の育成を図る。	集団でのリーダーとフォロアーの育成に努め、役割と責任を明確にした指導を実践し、学級集団の質の向上に努める。	学級活動、生徒会活動に積極的に参加、協力する活動を工夫し、自主性・自律性を育成する。	集団内の役割を果たしていると感じている生徒の割合が、 4：90%以上 3：70%以上 2：50%以上 1：50%未満	4	4	3.9	生徒会や委員会、部活動や学級で様々な活動に取り組み、その多くの場面で生徒の自主性を感じる。中学生の時期に社会貢献の精神を養い、積極性を育成していくことが大切だと感じている。	専門委員会や学級活動、部活動において、教員主導ではなく、生徒が自ら考えて行動する場面を大事にして、集団生活における役割や責任について考えさせる機会を増やす。
9	III 時代の要請にこたえる信頼される学校づくり	児童・生徒の安全の確保	組織体としての学校機能の強化	生徒会活動を中心とした自主的・自律的な生徒の活動を通して、誰もが安心して学校生活を送ることができる学校を築こうとする態度を育てる。	望ましい集団活動を通して、連帯感・所属感を味わわせるとともに、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。	「良き社会人の育成」のための学校の取組を教育活動説明会、HPや便りなどで周知するなど、保護者や地域に広報し、共有する。	保護者による教育活動への理解と協力について、肯定的意見が、 4：90%以上 3：70%以上 2：50%以上 1：50%未満	3	3	2.9	災害時等に地域から期待される中学生の役割は大きい。教育活動の周知・広報に注力していただきたい。	学級、学年、委員会、部などの集団生活を通して、「よき社会人の育成」を目指している。教育活動全般に対して、保護者や地域に向けた広報活動が不足している。紙によるたよりや学校公開以外の方法も実施していきたい。
10	III 時代の要請にこたえる信頼される学校づくり	質の高い教育の基盤となる環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の推進に組織的に取り組み、個に応じた指導体制を確立する。	不登校が心配される生徒や特別な支援を必要とする生徒に対して、担任を中心に保護者や養護教諭、スクールカウンセラー及び関係諸機関等が互いに連絡を密にし、手厚い指導体制を整える。	特別支援コーディネーターを中心に、特別支援教室と通常学級との連携を高め、指導の充実を図る。	特別支援教室において成果の見られる生徒の割合が、 4：90%以上 3：70%以上 2：50%以上 1：50%未満	4	3	3.3	個に応じた特別支援教育を実践していると思われるが、保護者会で説明するだけでは周知が不十分で、保護者の理解が進まないと思われる。	知的障害固定学級設置と特別支援教室拠点校の利点を生かし、交流教育等を通して、通常学級の生徒・教員が日常的に特別支援教育を理解する教育活動を展開する。